

文法への扉ー言葉のまとまりを考えよう
文法ー言葉の単位

名前

一年組番

○言葉の単位についてまとめよう。

①

一編の論説・小説のように、一まとまりの内容を、文字で書き表したものを文章、日常の会話など、音声で表された一まとまりの内容を、談話とよぶ。多くの場合、複数の文が集まってできている。

文章

一まとまりの内容を文字で表したもの。

〈例〉

- 一通の手紙
- 一編の論説・小説・詩
- 短歌一首・俳句一句

談話

一まとまりの内容を音声で表したもの。

〈例〉

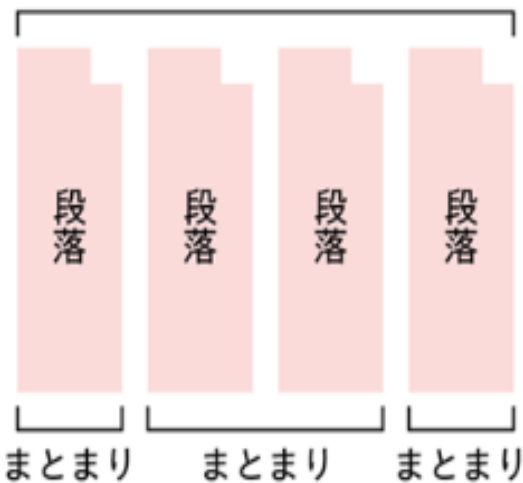
- 一回の演説・スピーチ
- 一つの話題に関する会話

②

書き手が、意図をより明確に伝えるために、文章を内容のまとまりごとに区切ったもの。段落の初めは改行し、一字下げる。

文章と段落

文章



いくつかの段落が結び付いて、大きなまとまりを作る場合もある。

③

「何(だれ)が―どうする・どんなだ・何だ・どうしたい・どうしろ」など、一まとまりの内容を表す一続きの言葉。最後に「。(句点)」を付ける。「?(疑問符^{ぎんぎん})」や「!(感嘆符^{かんたん})」を付ける場合もある。」

× 天気予報は雨だそうだがそうすると遠足は延期になるかもしれない

○ 天気予報は雨だそうだが。そうか。そうすると遠足は延期になるかもしれない。

④

発音や意味のうえで不自然にならないように、文をできるだけ短く区切ったまとまり。



⑤

言葉の意味を壊さないように、文節をさらに細かく分けたもの。それだけで使える言葉としては、最小の単位。

